

祝 辞

日本化学会 会長 向 坊 隆

高分子学会が創立 30 周年を迎えられたことに心からお祝いを申し上げます。日本化学会が、現在、シンポジウムの共催などを通じて密接に協力している関連学協会の数は 30 を超えるに至っておりますが、高分子学会はその中でも最も盛大に活動しておられる学会の一つであります。

30 年前といえば、1930 年代に発展した合成繊維や合成ゴムなどの研究開発がすでに相当な水準に達していた時代でありますから、高分子学会の設立は、まさに時宜を得たところであり、設立後、急速に発展されたのは当然のことでありました。わが国の高分子化学工業が、この 30 年の間に非常な発達を遂げ、世界でも最も高い水準の仲間に入りえたことについて、同学会の果たされた役割は極めて大きなものがあったと信じます。

一方、1960 年頃から、わが国はいわゆる石油時代に入り、エネルギー源をはじめ、化学工業の主要原料も石油に大幅に依存するようになりました。1973 年の石油危機以来、石油価格が異常な早さで高騰した結果として、わが国の化学工業の大部分が、大きな打撃を受け、経済的に苦しい状況に追い込まれていることは周知の通りであります。おそらく高分子化学工業も例外ではないと存じます。

しかしながら、高分子化学が大きな発展を遂げ、高分子製品がわれわれの生活に必要な欠くべからざる大切な原材料となっていることを考えますと、この産業が現在の苦境を克服して一層の発展を目指すことは、わが国産業界の抱える諸問題の中でも極めて大きな課題の一つと考えられるのであります。

石油価格が上がってしまったことは事実であり、わが国が工業諸国の中でも特にこの点で不利な状況にあることは否定できません。したがって、この問題の解決は容易なことではなく、一方に基礎的な学問分野で独創的な成果があげられるとともに、工業においても新製品や新しいプロセスの開発に今まで以上の努力の注がれることが必要と思われまます。

このような意味におきまして、高分子学会が 30 周年の機会に提示されました記念事業の諸項目は誠に適切なものであると深く敬意を表します。これらの諸事業が順調に進められ、学会の活動が一層盛んになって斯界の発展のために貢献されることを心から期待し、御祝辞に代える次第であります。

祝 辞

日本化学工業協会 会長 丸 田 芳 郎

高分子学会設立 30 周年を迎え、心からお祝い申し上げます。

周知のように、化学工業界は現在大変な試練に遭遇しており、難局打開にけんめいの努力を重ねている最中でありまます。打撃をこうむった直接の原因は、原油の急激な高騰からわが国化学工業が、原料・エネルギー価格において著しく国際競争力を喪失したことにより、原料・エネルギー対策を手をこまねいているわけではありませんが、資源に乏しいわが国にあって、米国、カナダやサウジと全く同条件に並ぶことは、これは望むべくもありません。

そういう意味で、わが国の今後の化学工業のすすむべき途が、技術開発力を生かして川下志向を目指し、より少ない原料でもってより付加価値の高い製品を生み出していく方向にあることは論

